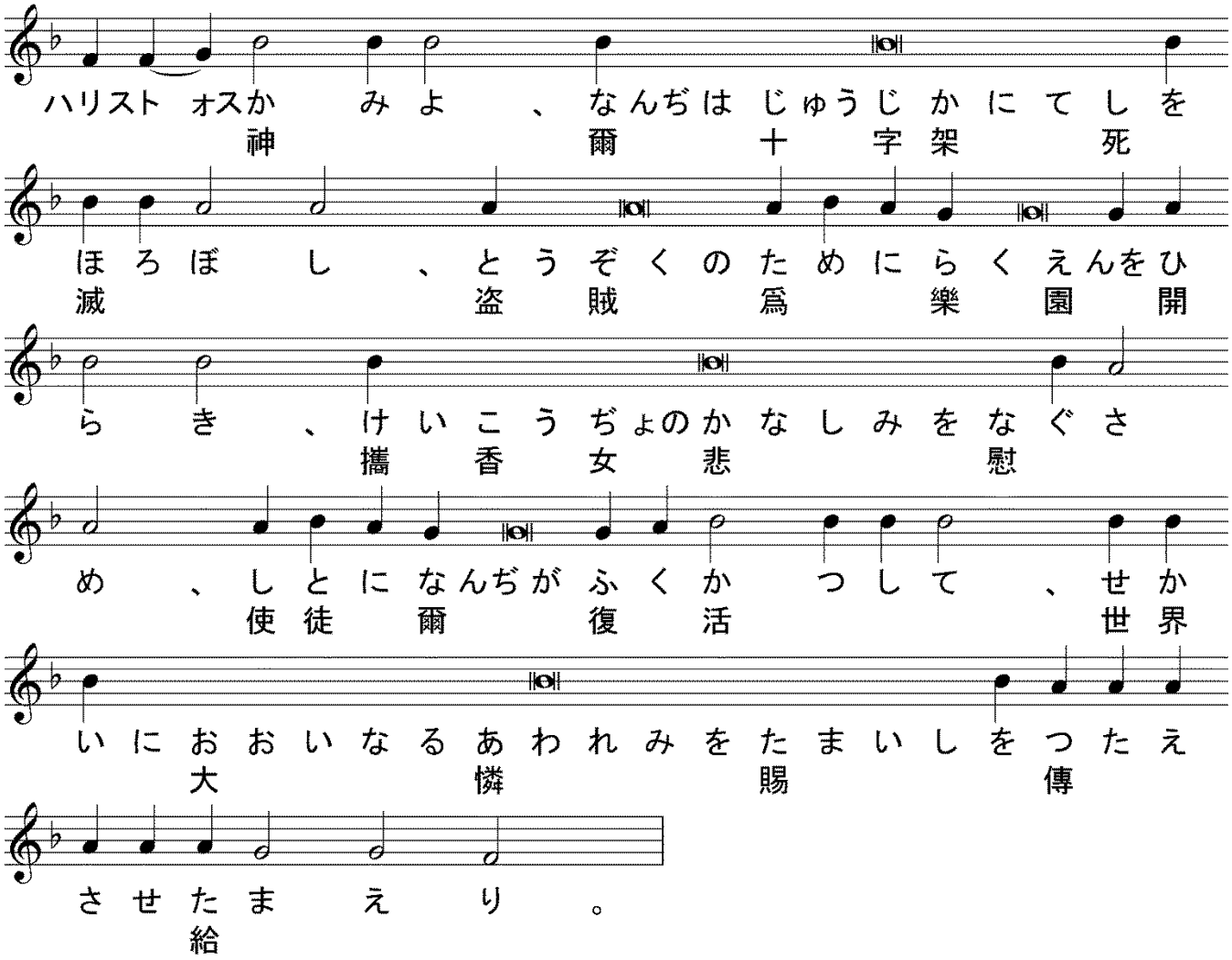
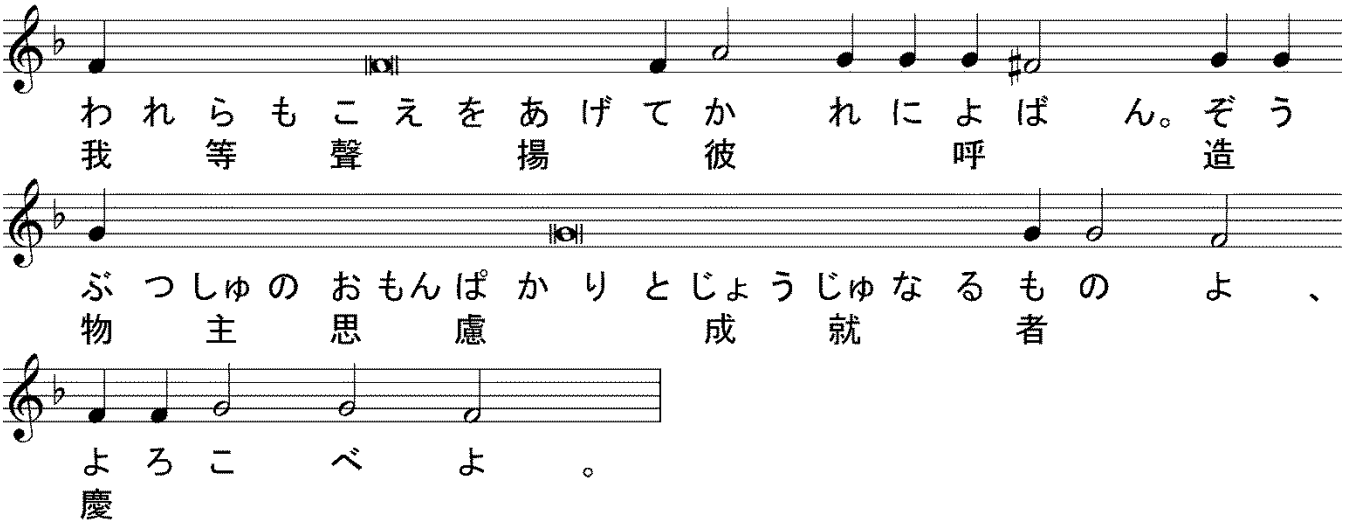
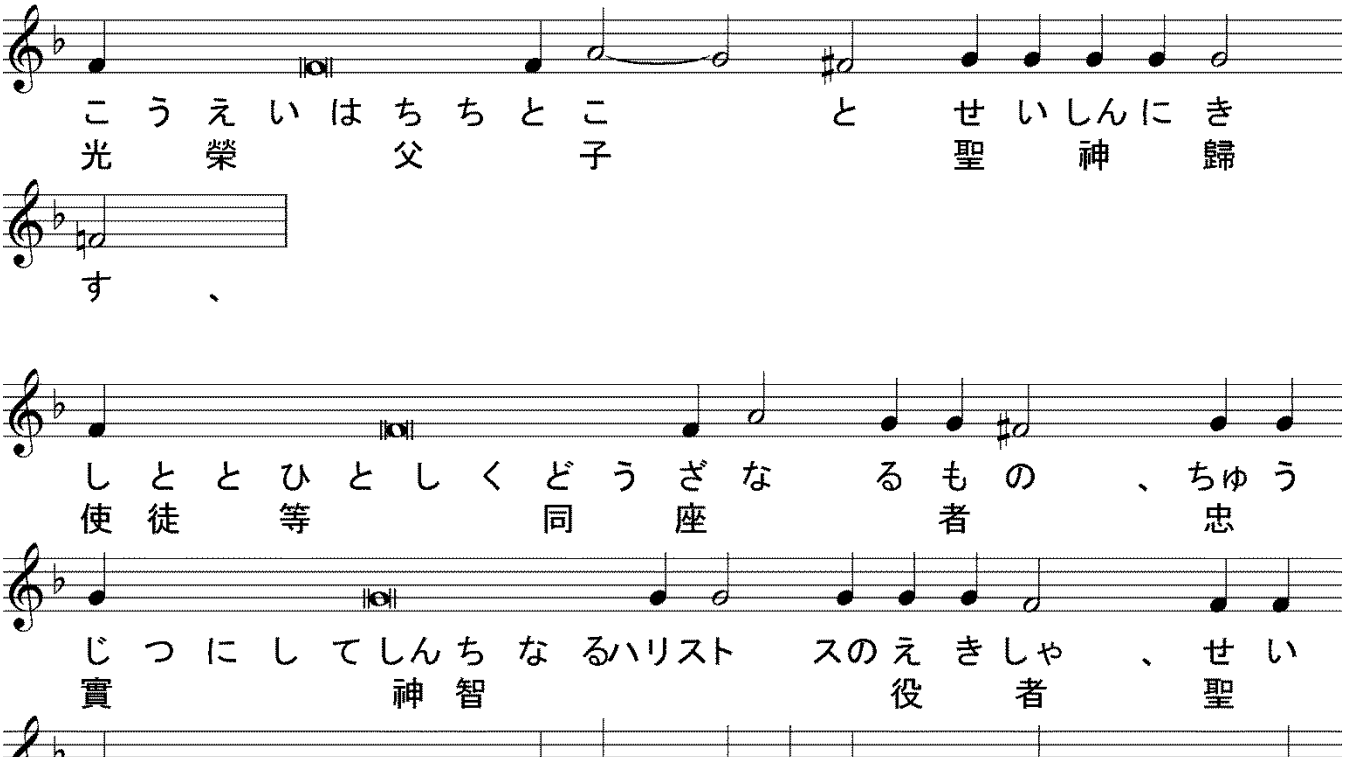
【　復活のトロパリ　第７調　】

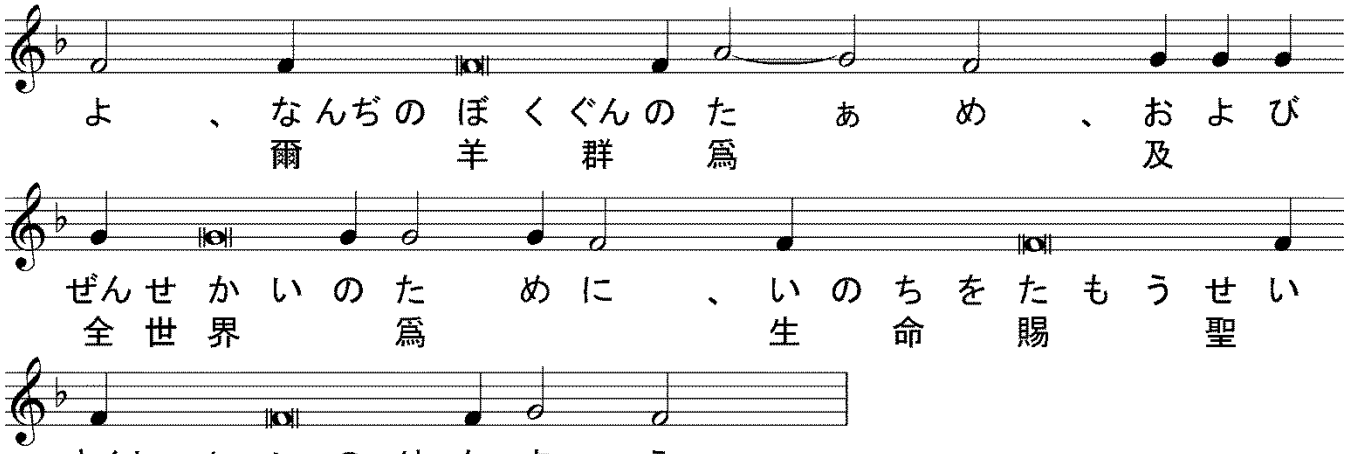


【　生神女進堂祭のトロパリ　第４調　】

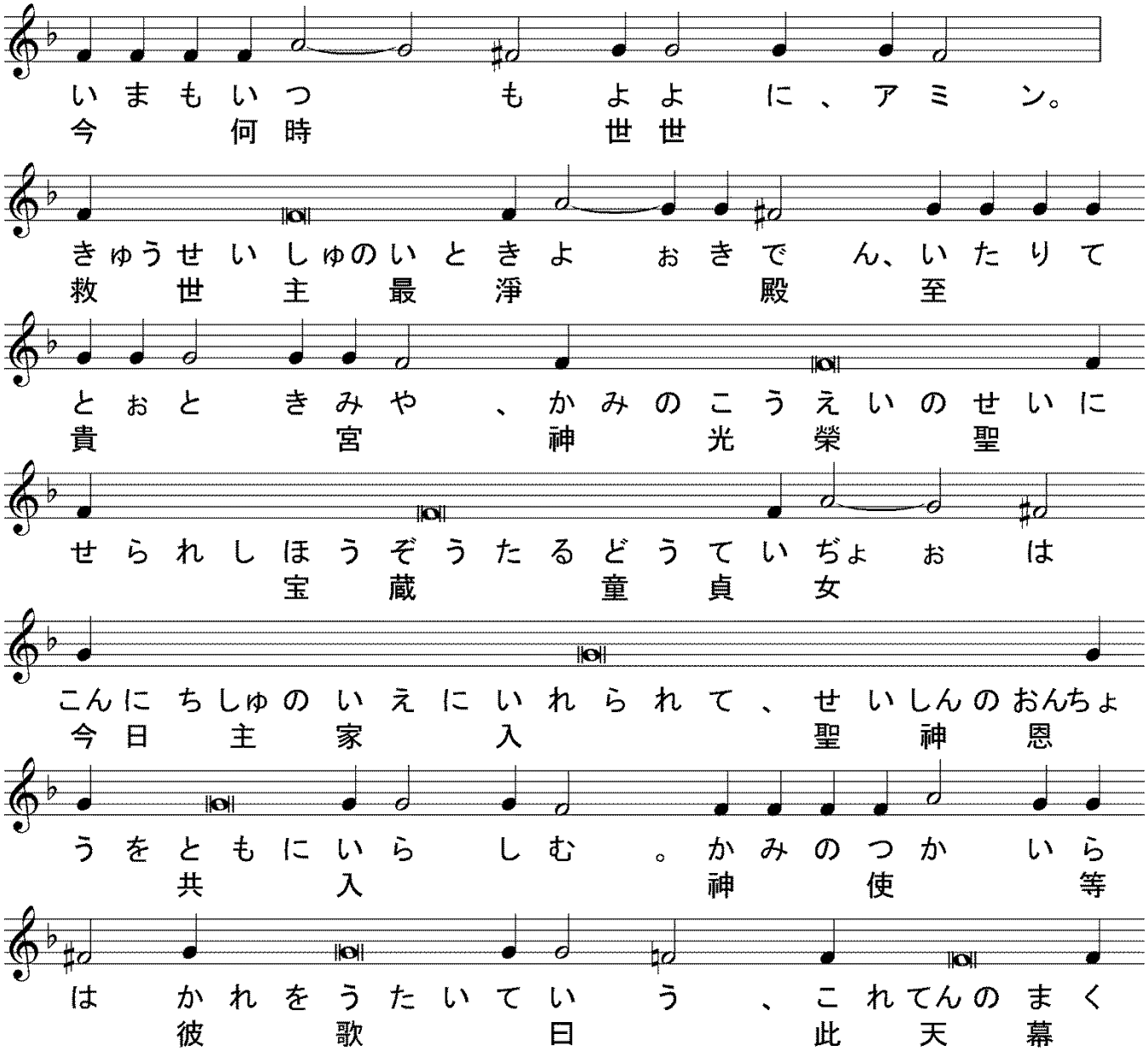


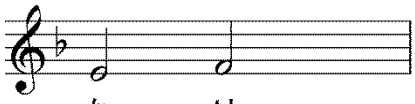
【　日本の亜使徒ニコライの讃詞　第４調　】





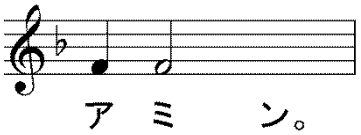
【　生神女進堂祭のコンダク　第４調　】



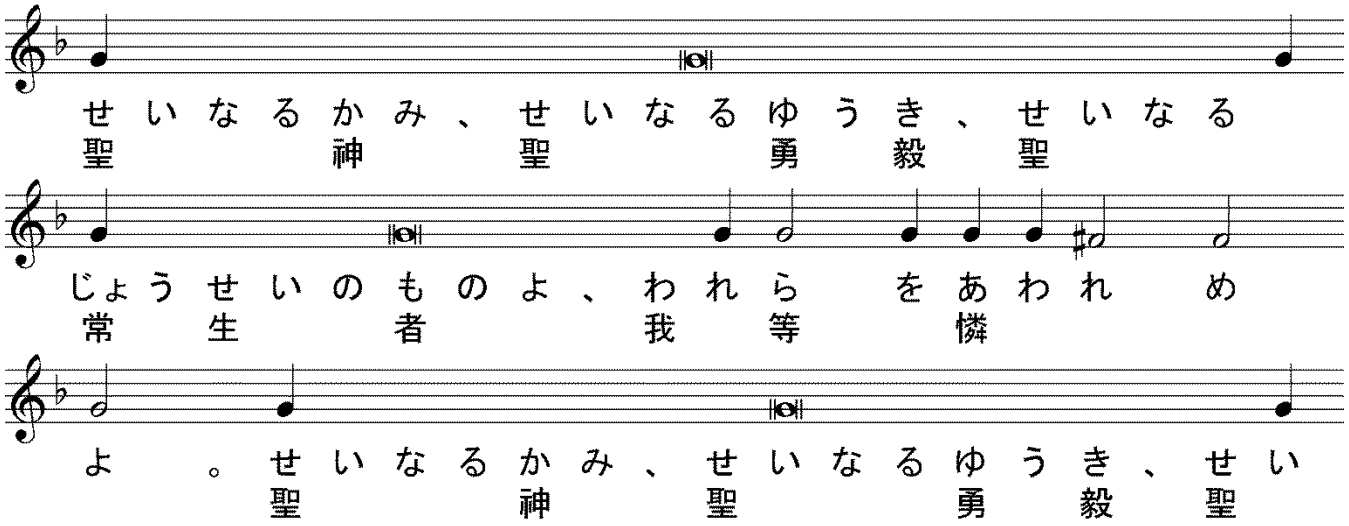


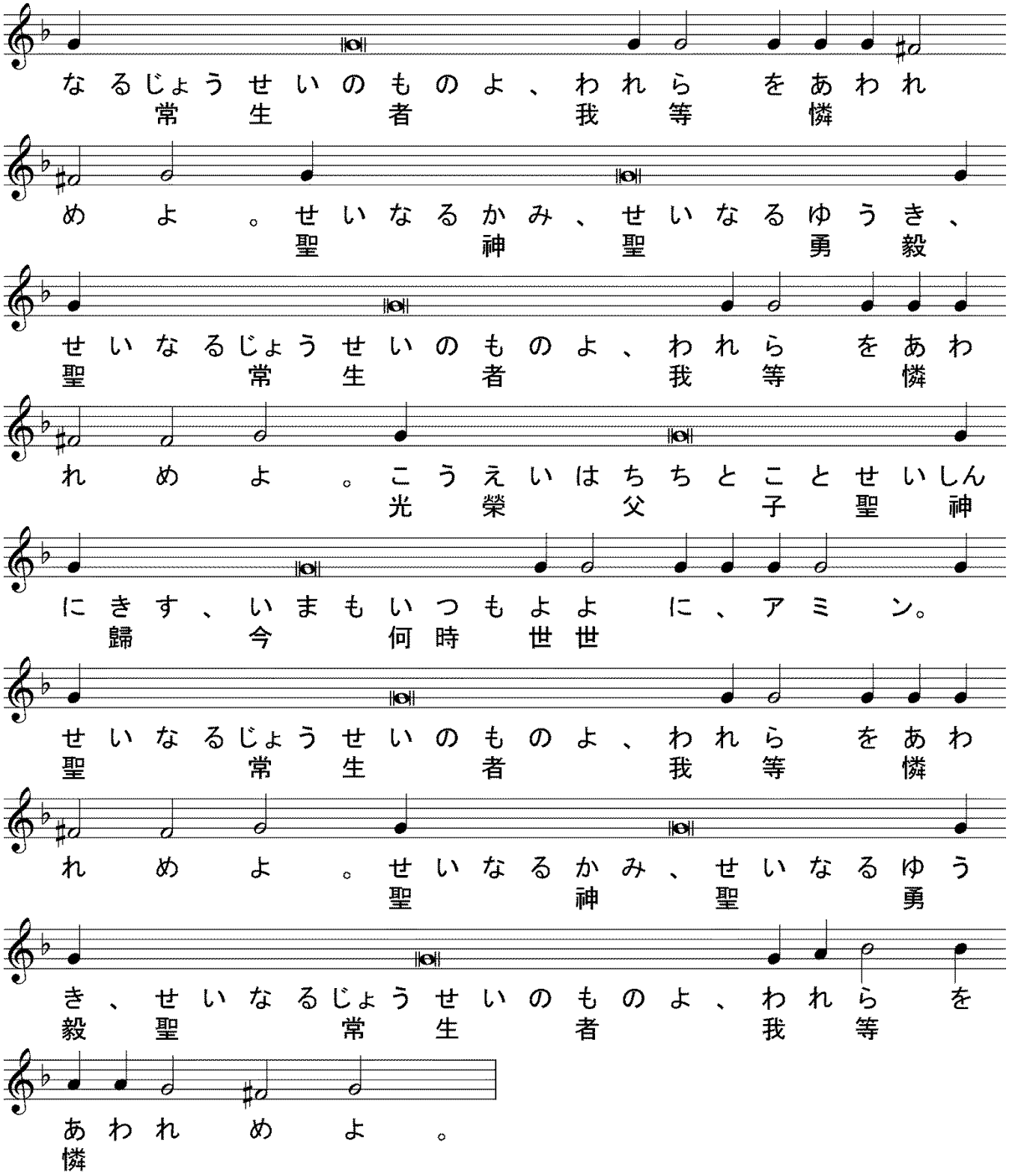
司祭）（ 黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拝せられ、萬物を無より有となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拝讃榮を奉るに堪うる者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 ）

司祭）蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、



【 聖三祝文 】

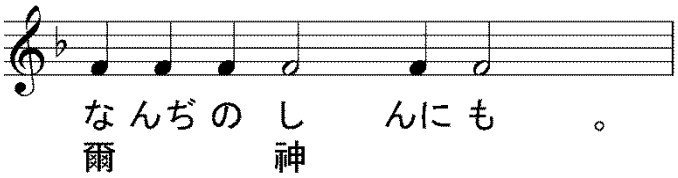




司祭）（ 黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、 ）

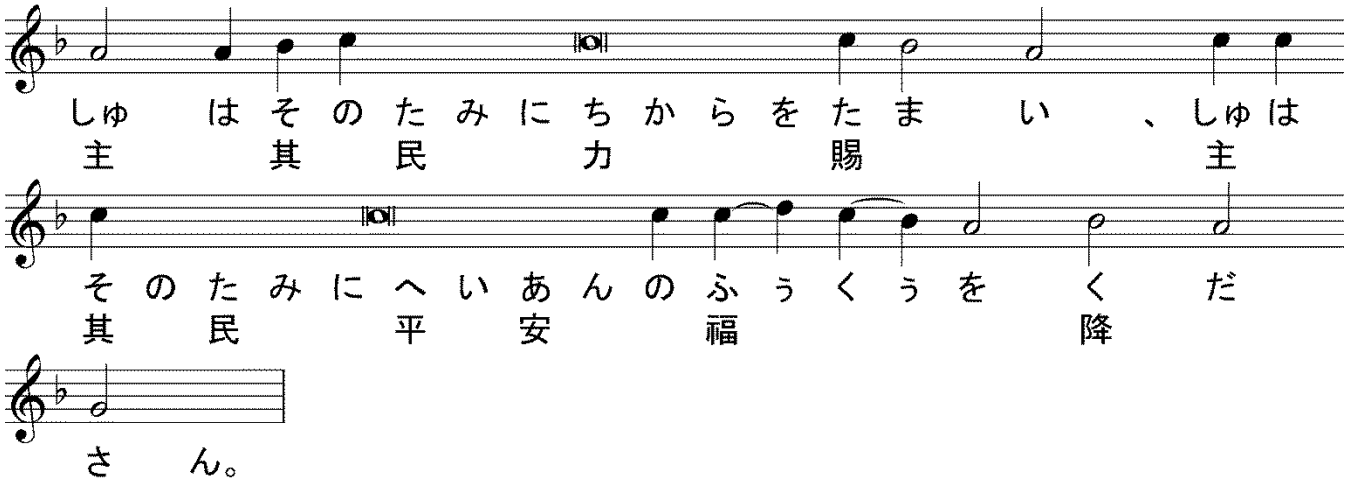
【 提綱（プロキメン）主日第7調 】

司祭） **愼みて聽くべし、衆人に平安、**

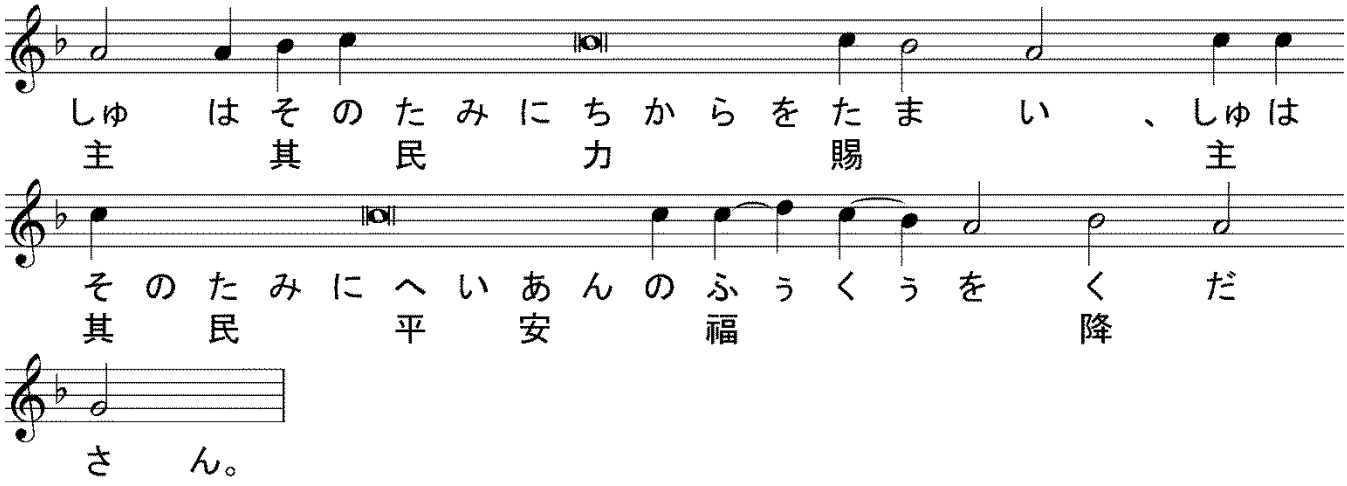


司祭）睿智（えいち）、

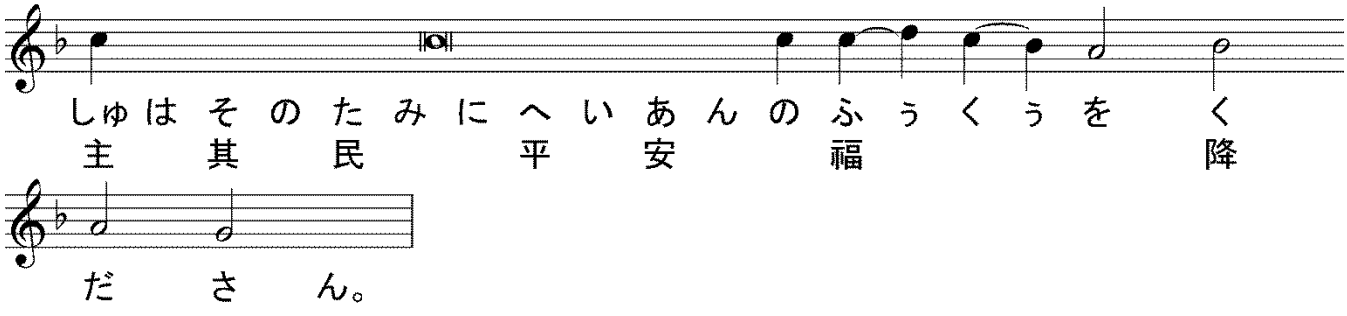
誦經）プロキメン、主（しゅ）は其民（そのたみ）に力（ちから）を賜（たま）い、主（しゅ）は其民（そのたみ）に平安（へいあん）の福（ふく）を降（くだ）さん、



誦經）神（かみ）の諸子（しょし）よ、主（しゅ）に獻（けん）ぜよ、光榮（こうえい）と尊貴（そんき）とを主（しゅ）に獻（けん）ぜよ、



誦經）主（しゅ）は其民（そのたみ）に力（ちから）を賜（たま）い、



【　使徒經（アポストロス）221端　エフェス書2章14節～22節　】

司祭）睿智、

誦經）聖使徒パヴェルがエフェス人に達する書の讀、

司祭）謹みて聽くべし、

誦經）兄弟よ、ハリストスは我等の和平なり、二の者を一と爲し、隔の墻を毀ち、己の身を以て仇を廢し、教を以て諸誡の律法を廢せり、是れ和平を爲して、二の者を以て、己に於て、一の新なる人を造り、又十字架にて仇を殺し、此を以て、一の身に於て、二の者を神と復和せしめん爲なり。且來りて、爾等遠き者及び近き者に和平を福音せり、蓋彼に由りて、我等二の者は、一の神に在りて、父に近づくを得るなり。故に爾等既に異民、或は他邦の人たらず、乃諸聖徒の同邦の人、神の家屬なり、爾等は諸使徒と諸預言者との基に建てられたり、イイスス・ハリストスは自ら其隅石なり。此の上に全屋は組み立てられ、次第に築きて、主に於ける聖殿と爲る、此の上に爾等も、神に由りて、神の居處として、共に建てらるるなり。

＊＊

（比較用　口語訳）キリストはわたしたちの平和であって、二つのものを一つにし、敵意という隔ての中垣を取り除き、ご自分の肉によって、数々の規定から成っている戒めの律法を廃棄したのである。それは、彼にあって、二つのものをひとりの新しい人に造りかえて平和をきたらせ、十字架によって、二つのものを一つのからだとして神と和解させ、敵意を十字架にかけて滅ぼしてしまったのである。それから彼は、こられた上で、遠く離れているあなたがたに平和を宣べ伝え、また近くにいる者たちにも平和を宣べ伝えられたのである。というのは、彼によって、わたしたち両方の者が一つの御霊の中にあって、父のみもとに近づくことができるからである。そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。このキリストにあって、建物全体が組み合わされ、主にある聖なる宮に成長し、そしてあなたがたも、主にあって共に建てられて、霊なる神のすまいとなるのである。

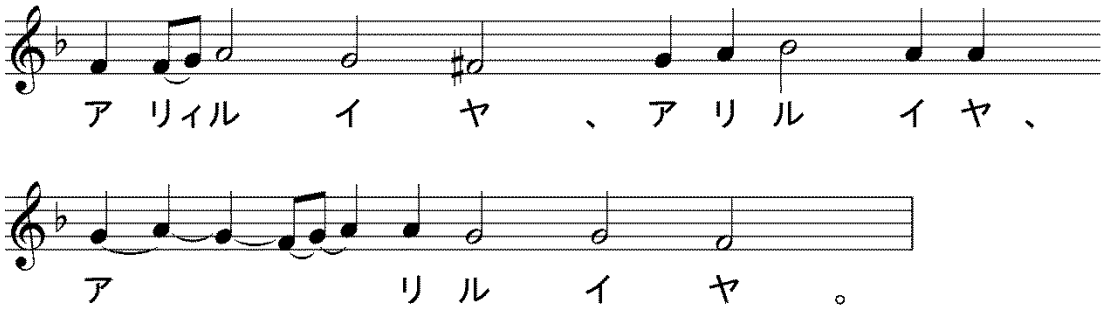
＊＊

司祭）爾に平安、

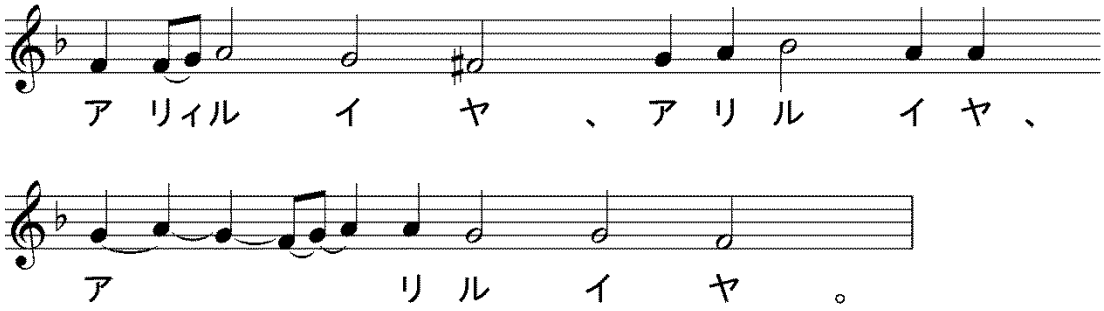
誦經）爾の神にも、アリルイヤ、

【　アリルイヤ　主日第7調　】

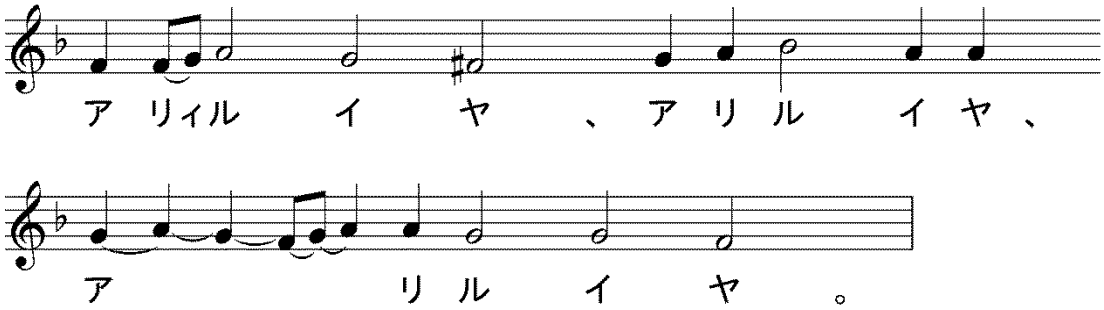
司祭）睿智、



誦經）至上者よ、主を讃榮し、爾の名に歌うは美なる哉、



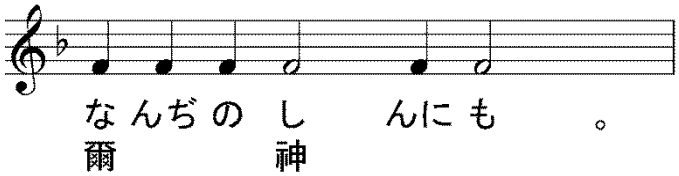
誦經）爾の憐を朝に宣べ、爾の眞を夜に宣ぶるは美なる哉、



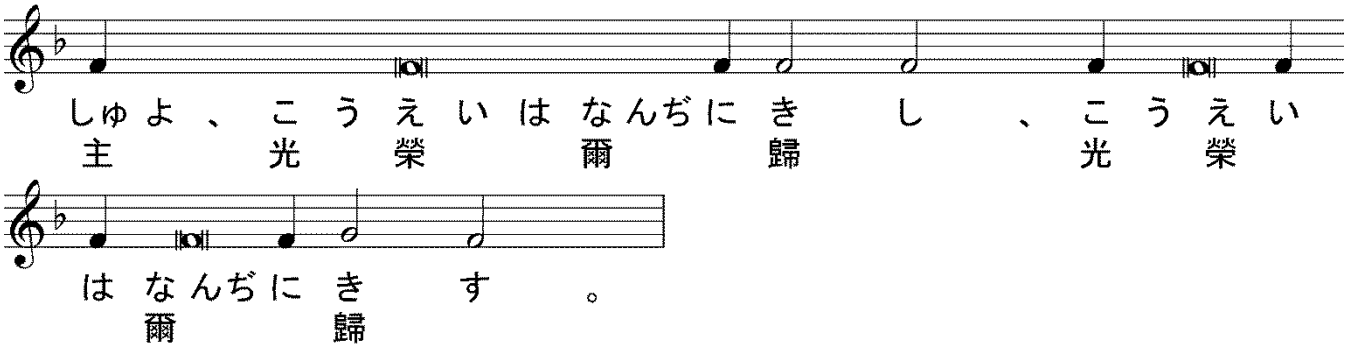
司祭）（　黙誦: 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誡を畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。　）

【　福音經（エヴァンゲリオン）　ルカ福音書66端　12章16～21節　】

司祭）睿智、肅みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、



司祭）ルカ傳の聖福音經の讀、

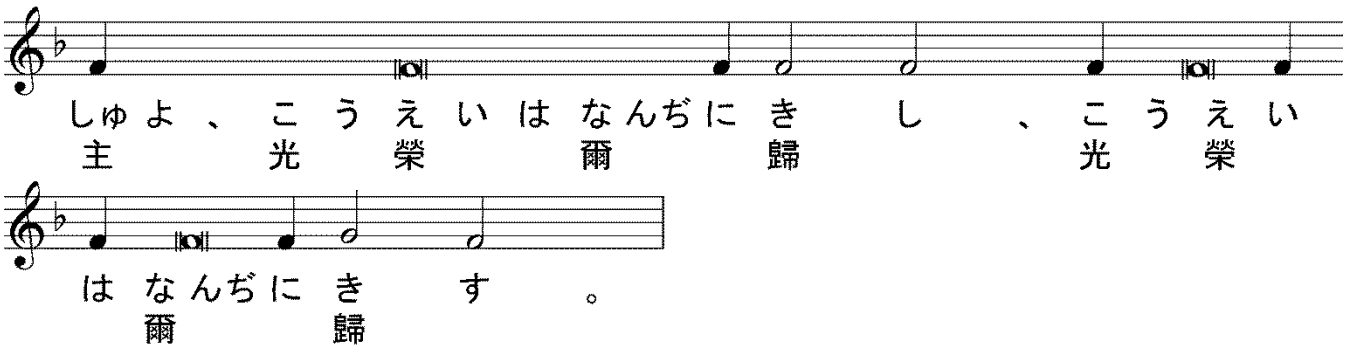


司祭）謹みて聽くべし、）主は左の譬を設けて曰えり、或富める人に田畆の善く實れるあり、彼自ら忖りて曰えり、我何を爲さんか、蓋我が作物を藏むべき處なし。又曰えり、我斯く爲さん、我が倉を毀ちて、更に大なる者を建て、此の中に我が悉くの穀物と貨物とを聚めて、我が靈に謂わん、靈よ、爾には多年の爲に蓄えたる多くの貨物あり、息み、食い、飲み、樂めと。然れども神は彼に謂えり、無知なる者よ、今夜爾の靈を爾より索めん、然らば爾が備えし所の者は誰に歸せんか。凡そ己の爲に財を積み、神に於て富まざる者は是くの如し。

＊＊

（比較用　口語訳）イエスは一つの譬を語られた、「ある金持の畑が豊作であった。そこで彼は心の中で、『どうしようか、わたしの作物をしまっておく所がないのだが』と思いめぐらして言った、『こうしよう。わたしの倉を取りこわし、もっと大きいのを建てて、そこに穀物や食糧を全部しまい込もう。そして自分の魂に言おう。たましいよ、おまえには長年分の食糧がたくさんたくわえてある。さあ安心せよ、食え、飲め、楽しめ』。すると神が彼に言われた、『愚かな者よ、あなたの魂は今夜のうちにも取り去られるであろう。そしたら、あなたが用意した物は、だれのものになるのか』。自分のために宝を積んで神に対して富まない者は、これと同じである」。

＊＊



※聖体礼儀③（金ロイォアン聖体礼儀）へ